

トップの視点

医療法人社団

中津胃腸病院 理事長

安部 寿哉氏

県北地域で唯一緩和ケアを行い、患者様とその家族に対し、身体的な問題や心理社会的問題などに対応し評価する。職員全員が主役となって、病院経営に参加し、経営的な感性を醸成する。組織全体で考え行動する病院の理事長安部寿哉氏にお話を伺った。



昭和55年、中津胃腸病院は、藤井善男先生と故武藤征郎先生の共同経営という形で、中津市中央町の閑静な住宅街の一角で産声を上げました。

当院は、胃がん・大腸がんなどの悪性疾患から胆石症・クローン病・大腸憩室炎などの良性疾病まで消化器疾患を中心とする診療を続けています。

現在は大分大学第2内科、及び宇佐中央内科病院のご協力をいただき、呼吸器内科・血液内科・腫瘍内科・肝臓内科の専門外来も行ってまいります。

また、深野昌宏院長を中心に緩和ケアチーム

昭和55年、中津胃腸病院は、藤井善男先生と故武藤征郎先生の共同経営という形で、中津市中央町の閑静な住宅街の一角で産声を上げました。

当院は、胃がん・大腸がんなどの悪性疾患から胆石症・クローン病・大腸憩室炎などの良性疾病まで消化器疾患を中心とする診療を続けています。

現在は大分大学第2内科、及び宇佐中央内科病院のご協力をいただき、呼吸器内科・血液内科・腫瘍内科・肝臓内科の専門外来も行ってまいります。

また、深野昌宏院長を中心に緩和ケアチーム

ムを充足、熱心に緩和医療に取り組んでいます。平成21年からは乳腺外科を開設し増加している乳がんの診療に貢献すべく努力しています。

このように、当院の基本理念である「安心して、気持ちよくかかれる病院」を合言葉に地域の中で果たすべき役割を追い求めてまいりました。

当院は昨年創立30周年を迎えた10年に向けて病院の長期戦略プランを遂行し、さらなる発展を図って参りたいと思っております。

医療を取り巻く環境は相変わらず厳しいものがありますが、全職員が地域に目を向け真摯に仕事に取り組み医療人として互いに切磋琢磨していかねばならないと身を引締められています。

当院では、今年度よりKCCSマネジメン トコンサルティング株式会社を展開している京セラ式医療経営コン

THE NEW VALUE FRONTIER



サルディングを導入することと致しました。

ベースとなるのは、京セラグループで行なわれているアメーバ経営です。アメーバ経営では、「会社の経営は、一部の経営トップのみで行うものではなく、全社員が関わりをもって行うものだ。」との考えに基づき、組織を細分化し、それら組織の独立採算制により仕事の成果を会社経営への貢献度を明確に示し、全社員の経営への参加を促します。

自部門の実績が明確

に意識されるようなならば、各組織内で収益向上に向けた創意工夫などの自発的取り組みも活発化し、更には全職員の経営的な感性の醸成にもつながることが期待されます。

一方で、職員全員が病院の現状を把握し病院の向かっていく方向や課題を共有し理解することが重要です。毎月行われるミーティングを通じて職員全員での情報共有と意思統一を図る。そのような取り組みも合わせて行います。

その結果として、現場レベルで経営情報の開示がすすめられ、職員一人一人が主役となって病院経営に参加していただきたいと考えています。また、そのような意識を持って取り組むことにより、組織全体のことを考え行動できる職員や、リーダーが育っていくものと思えます。

今期より中津胃腸病院では、大分ヒートデビルズ(プロバスケット)



bリーグチーム)のサポートブースターとしてスタートさせていただきます。



リレー・フォー・ライフとはがん患者様や家族、その支援者らが、会場を24時間を交代しながら歩くことで、「がん患者は24時間がんと闘っている」を共に感じて、がん征圧への願いを新たに絆を深め合うイベントです。

今年9月23日(金)24日(土)の二日間大分スポーツ公園大芝生公園で行われます。

中津胃腸病院は昨年より参加し、職員も感動の24時間を参加者全員と共有することが出来ました。

当院では、緩和ケアを行う患者様を多く見守り取り組んでいます。

緩和ケアとは、生命を脅かす疾患による問題を直面している患者様とその家族に対して痛み、身体的問題、心理社会的問題、スピリチュアルな(霊的な)魂の問題)に関与してきかんとした評価をおこない、それが障害とならないように予防したり対処したりすることです。

クオリティ・オブ・ライフ(生活の質)を改善するためのアプローチです。県北地域での緩和ケア病棟はまだ無く、当院では入院環境の整備を行い、近い将来に実現できる様に考えております。

消化器疾患においての診療の最先端を目指しつつ、終末期の患者様の苦痛を取り除き、患者様とご家族にとって、自分らしい生活を送れるようにするために職員一同、日々の看護・療養に邁進しております。

中津 蘭学とパイオニア精神

3 三浦按針の活躍

医療法人玄真堂
川島整形外科病院
理事長
川島 真人氏

慶長18年(1613)、イギリス船クロブ号の司令官ジョン・セーリスがジェイムス国王の国書を携えて平戸に入港した。イギリス人である按針は平戸を訪ね、船長を同道して駿府の家康に謁見させてイギリスとの国交樹立にも貢献した。家康は漢文でイギリス国王宛の返書を書き、その英語版をアダムスが練ったことでも知られている。イギリスも朱印状を得て、平戸に商館を設けた。

1564年9月24日、按針はイギリスのセント州ジンガムという造船業の盛んな町に生まれ、1588年スペインの無敵艦隊とイギリスが戦



オランダ商館跡 (平戸)

つた時には、提督ドレイクの率いる艦隊の旗艦のための食糧補給艦リチャード・ダフワイルド号の艦長を務めていた。オランダにいた頃には北極探検の航海にも水先案内人となつて活躍したという話もあり、並大抵の人物ではなかった。

イギリス商館が平戸に開設されたからには、按針はもっぱらイギリス東印度会社のために働いた。大坂城を攻めようとして家康は按針を仲介させてイギリス東印度会社から33ポンドの弾丸が発射できる大砲を購入した。この大砲が大坂城に籠城中

の秀頼や淀君を悩ませたことは有名である。按針は東印度会社の社員として琉球やシャムにも航海し、日英貿易の発展のために活躍していたが、家康の死後は大きな転機が訪れた。

二代目の将軍秀忠は元和2年(1616)、キリスト教禁止令を発布し、イギリスとオランダを除く全てのヨーロッパ人の国外退去を命じた。イギリス、オランダ両国の貿易は平戸のみで制限されてしまった。按針は毎日のように幕府の重臣を訪ね、江戸での交易を求めたが全く埒があかず商館長コックスと平戸へ向け

平戸へ戻った按針は商館を去り、独立して貿易するために中国商人からジャンク船を買入れ安南へ渡つた。安南は治安が悪く、長期滞在には不向きと悟つた按針は再び平戸に戻り、コックスに従つて京都の旅へ上ることになった。将軍秀忠の上洛を機会に謁見するためであった。上洛後も貿易の自由の請願運動を行ったが、幕府は平戸と長崎での商売だけしかどうしても認めようかというこにコックスは日英貿易の限界を感じていた。コックスの危惧した通りに日英貿易は一層困難となり、貿易の主役はオランダへと移つていった。

オランダは巧みに中国との交易にも成功し、中国の産物を日本に輸出してイギリスを日本から蹴落としてしまった。按針の航海日記では元和5年(1619)の3月にトンキンに向けて最後の航海が行われたことが記載されている。この地にてリーフデ号でいっしょに漂着し



イギリス商館跡 (平戸)

たヤン・ヨーステンと再会し、無事を喜びあつた。按針は母国に帰ることなく、平戸に没した。按針の墓は平戸にあるが、横須賀市逸見町の山の江には按針町がある。江戸の夫婦塚の人々は毎年ここで法事を営んでいたという。明治になってこの塚が荒廃していったので、横須賀の富士山ホテル経営者の安西善六が五十円を出資して修繕を行った。イギリス人たちの間ではこの塚は評判となり、明治39年にも大改修が行われた。遺産は商館長コックスとウィリアム・イートンといふ友人を遺産管理人として、半分をイギリスに住む妻子に、残りの半分を日本人妻との間にできた息子と娘に譲

参考文獻

- 岡田章雄：三浦按針、思文閣出版、京都、1984年
- 惣郷正明：洋学の系譜、研究者出版、東京、1984年
- 大分歴史博物館：おおいの蘭学事始、宇佐市、2005年
- 平戸市日蘭交流400周年記念事業実行委員会、平戸オランダ商館展、2000年
- 神戸市立博物館、日蘭交流のかけ橋、1998年



外科・内科・肛門外科・乳腺外科
疼痛緩和内科・麻酔科

〒871-0162 大分県中津市大字永添510番地
TEL 0979-24-1632
http://www2.ocn.ne.jp/~n_icho



J.POSH 日本乳がんピンクリボン運動

ピンクリボンとは、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんの家族が、「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて作ったりボンからスタートした、乳がん啓蒙運動のシンボルマークであり乳がんに対する理解と支援のシンボルです。

中津胃腸病院では、昨年よりマンモグラフィ検査で乳がん早期発見のピンクリボンサンデーを実施いたしました。

多くの女性が検査を受けられました。

中津胃腸病院では、日曜日に乳がん検診を受けることができる『ピンクリボンサンデー乳がん検診』を、下記のとおり行います。予約制・日曜日の検診ということで通常の外来診察もなく、ゆっくりと検査を受けることができます。乳がん検診を受けたことがない方は、この機会に受診されてはいかがでしょうか。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 日時：平成23年10月16日 | A. 乳腺エコー+マンモグラフィ+視触診 4,000円 |
| 予約受付 先着40名 | B. 乳腺エコー+視触診 2,000円 |
| Am 9:00 ~ Am 11:00 | C. マンモグラフィ+視触診 2,000円 |
| Pm 1:00 ~ Pm 3:00 | 初めの方、2回以降で紹介者が要る方は50%OFF |
| 予約受付 0979-24-1632 | |

次回の日本乳がん
ピンクリボンサンデーは、

J.M.S
10月3日(日)はマンモグラフィ検査が受けられる日曜日

2011年度は
10月16日(日)です